

●太平洋戦争中の代表的な言論弾圧、思想弾圧事件

▽中野正剛代議士の自殺

新聞は「昨夜日本刀で割腹」と速報

政界 言論界に大きな衝撃 憲兵の圧力

▽横浜事件 特高警察が言語を絶する拷問で

4人が獄中で死亡 4人が保釈後に死んだ

●昭和17、8年頃の国民生活

▽米は 16年4月(6燐) 割当通帳制による配給

大人1人1日 2合3勺(330g)

▽食糧難の実感 米の代用にジャガ芋(18年6月)

月1人1<sup>モ</sup>で 米1合分が差し引かれた

▽18年9月からは 野菜の買い出し制限

都市近郊で 2貫目(7.5%)まで

埼玉県では 平日5千人 休日に1万人

栃木県 日曜(10月17日)に 1530人検挙

▽米も5分づき(18年1月) やがて2分づきに

新聞には「遅しく嘯みしめよう」

コウリヤン 豆かす トウモロコシ混入

主食の質・量の低下は 国民生活を窮乏化

▽政府も 空き地利用の家庭菜園など

国民に 自給自足体制整備を 呼びかけた

●切符配給制は生活必需品のあらゆる分野に

▽マッチ 15年6月から 6人家族で

小型の箱が 2か月1個の貴重品

▽調味料は 17年に入ってから

月に1人あたり 塩200g(1月)

味噌183匁 醤油3合7勺(2月)

▽衣料品も 17年2月に切符点数制に

年間100点(1人) 背広50点 国民服32点

買おうにも 現物のない 有名無実なものに

▽名古屋市は18年4月 市電・バスの

女性車掌600人の服装を モンペに統一

▽大日本婦人会が 長袖の和服女性にカード

「決戦です! すぐお袖をお切って下さい」

▽石鹼も 都市部(4人糞)が月2個 地方1個

粘土分70% 使うとドロドロに溶ける代物

中野 正剛(なほ・せいこう)

明治19(1886)~昭和18(1943)福岡県生



まれ。政治家。朝日新聞記者を  
経て大正9年衆議院議員。当選  
8回。革新倶楽部、憲政会、民政  
党を経て、昭和10年東方会(の  
ち東方同志会)を結成し、南進

論、日独伊三国同盟を提唱した。戦時中  
東条内閣打倒の重臣工作を画策して18  
年10月逮捕され、釈放直後に割腹自決。  
文化勲章受章の評論家三宅雪嶺の女婿

朝日新聞夕刊(昭和18年10月27日)

中野正剛氏は二十七日午前六時、渋谷区代々木本町八〇八の自宅階下居間の仏壇の前で死亡しているのを、同家女中が発見、…検視の結果、二十六日午後十二時ごろ、日本刀で割腹、さらに頸動脈を切断し自殺したものと判明した。なほ遺書一通があった。異変の中野邸には逸早く令弟の中野秀人画伯、東部第十部隊在営中の令息達彦伍長がかけつけたほか頭山満翁、三宅雪嶺翁らが弔問に来邸した。

特高

警視庁は、社会主義思想の取り締まり強化のため、明治44年8月21日特別高等課を設置、スト、爆発物の取り締まりのほか、新聞雑誌、出版物の検閲に当たった。大正6年には特高警察機構を拡充して次第に力を強め、支那事変が始まってからは社会主義者ばかりでなく、国民の一人一人を監視、思想統制を図る警察組織へと発展、特に残忍な取り調べで恐れられた。

▽物不足の深刻化と共に 行列買いが日常化  
情実売り 闇取引 抱き合わせ販売 横流し横行

●庶民の批判精神は鋭く旺盛だった

▽増大する軍事費捻出に 間接税増税(18年1月)  
写真撮影 整髪美容 洋服仕立てに「特別行為税」  
▽18年1月17日 たばこ値上げ  
軍隊専用の「ほまれ」を除き 平均6割1分  
「金鶏」10銭が15銭 「光」18銭が30銭

古川ロッパは日記に「新聞を見てびっくり、  
煙草値上げ、今度のは吃驚するほどにて、光が  
一八銭が三十銭はむごい」

▽政府は情報局に「流言蜚語対策協議会」(16年9月)  
特高警察を増員して 噂話の取り締まり強化  
▽連戦連勝の開戦当初こそ 動揺はなかったが  
生活物資が欠乏し 18年に入り暗いニュース  
ガ島撤退 連合艦隊司令長官山本五十六戦死  
アツ島玉砕と続くと 国民は疲れ 不安や不満  
▽憲兵・特高の厳しい監視下  
表向きは「見ざる・言わざる・聞かざる」  
▽「特高月報」(内務省編)には 様々な報告  
「紀元二千六百年奉祝歌」をもじり 替え歌流行

奉祝歌	→	替え歌
金鶏輝く日本の		金鶏あがって一五せん
栄ある光身に受けて		栄ある光三〇せん
今こそ祝へこの朝		遙かに仰ぐ鵬翼は
紀元は二千六百年		二五せんになりました
ああ一億の胸は鳴る		噫一億はみな困る

●国民の戦意高揚に敵性音楽・敵性語追放

▽内務省 情報局は 18年1月13日  
演奏禁止の米英音楽 1000曲のリスト発表  
「米英音楽は軽佻浮薄、物質至上、末梢感覚万能  
に毒されており、国民の士気高揚に一掃する」  
▽追放の対象は 雑誌名 職業名 スポーツ用語  
日常 人々になじまれている米英語にも

.....「主婦の友」の記事から .....  
・米は洗わずに、湯炊きして三割増しにする「国策炊き」を実行せよ。  
・少量で口を満足させるには、ご飯は最初に汁物を二杯ほど飲んでから食べること。  
・ニンジン、ダイコン、カボチャの葉っぱ、枯葉も食べ、卵の殻はすりつぶして粉にして味噌汁に。茶殻、オオバコ、クローバーなど、雑草も工夫して食べよ。

古川 ロッパ(ふるかわ ろっぱ)

明治36(1903)～昭和36(1961)東京生まれ。喜劇俳優。本名郁郎、緑波とも書く。元東京帝大総長加藤弘之の孫。昭和8年徳川夢声らと「笑いの王国」を結成し売れっ子に。エノケンと人気を分けた

「特高月報」から  
・近頃、東京南千住方面工場従業員間に小原節にて左記の如き歌詞流行しおるの聞き込みあり、「今の社会で幅きくものは 星に錨に桜に闇よ どうせ俺等は捨小舟」  
・「世の中に星に錨に闇に顔 馬鹿者のみが行列に立つ」の狂歌の落書  
・東京・神田の公衆便所に落書、「戦争ヤメロ」  
・和歌山市で五十銭紙幣に「天皇陛下のばか」の落書  
・大阪で葉書摘発、「我々はもう戦争はあきあきしました。一日も早く平和の来る様神様に御祈り致しましょう。此の葉書を受け取った方は、此の通りに書いてあなたの知人二人にお出し下さい。早く平和の日が来ます」

…… 徳川夢声は日記に皮肉いっぱい……

昨日散歩の途次、英霊の家と大きく記した家が、方々にあるのを見たが、英霊の「英」は英国の英と同じ字であるのを思い、妙な気がした。英人の霊がつまり英霊みたいである。今朝、新聞を見ると、「独機がマルタ島を空襲して英機を撃砕した」とある。英機は東条首相の名ではないか。首相が撃砕されては困る。(5月11日)

### ●野球は「敵性スポーツ」と目の仇に

▽中等学校野球大会は

「神宮国民体育大会以外の全国的競技大会中止」

の厚生省通達(16年7月13日)で 中止に

▽東京6大学野球も 18年4月28日

連盟を解散 大正14年以来のリーグ戦を中止

▽プロ野球は チーム名を日本語にしたり

ユニフォームをカーキ色 帽子も戦闘帽に

▽戦争目的に沿うよう「産業戦士慰問大会」とか

「飛行機献納大会」と銘打って 試合を続けた

▽ルール・審判用語も 日本語化(18年3月2日)

▽選手が次々と戦場にとられ 空襲も始まり、

19年9月(9日~11日) 後楽園と甲子園で

「総進軍優勝大会」を最後に 試合を中止

#### 「引き分けはダメ」

陸軍は選手交替や引き分けは「日本精神に反する」とクレームをつけてきた。17年5月24日、後楽園の名古屋対大洋戦は午後6時27分、延長28回4対4のまま、日没で引き分けになった。名古屋の西沢道夫投手が311球、大洋野口二郎投手は実に351球を投げている。

18年5月22日の大相撲夏場所で、青葉山・龍王山の引き分けに、相撲協会は「敢闘精神なし」として両力士を無期限出場停止にした。

▽清沢冽は 日記に「小児病的な現代思想」

▽排外キャンペーンが及ばない珍現象も 随所に

イギリス民謡「庭の千草」「埴生の宿」は

「国民生活に融け入っている」と 禁止の対象外

▽ラジオ ピアノ プロペラも 敗戦まで使われた

### 追放された敵性音楽・敵性語

[敵性音楽] ダイナ、私の青空、スザンナ、オールド・ブラック・ジョー、峠の我が家、アロハ・オエ

[スポーツ] ラグビー→闘球、ホッケー→杖球、サッカー→蹴球、ゴルフ→打球、レスリング→重技

[野球] ▽チーム名=タイガース→阪神、イーグルス→黒鷲 ▽審判用語=ストライク→よし一本、ボール→一つ、三振→それまで、セーフ→よし、アウト→ひげ、ファウル→だめ

[雑誌] エコノミスト→経済毎日、サンデー毎日→週刊毎日、キング→富士、大阪パック→漫画日本

[放送・音楽] ニュース→報道、アナウンサー→放送員、スタジオ→演奏室、レコード→音盤、コンクール→音楽顕奨、ド・レ・ミ→ハ・ニ・ホ

[レコード会社] ポリドール→大東亜、日本ビクター→日本音響、日本コロムビア→日畜工業、キング→富士音盤

### 徳川 夢声(とくがわ・むせい)

明治27(1894)~昭和46(1971) 島根県生まれ。映画弁士、漫談家、俳優。本名福原駿雄。NHKで宮本武蔵を朗読、話術の第一人者に。戦後はラジオ「話の泉」、週刊朝日「問答有用」で活躍。著に「夢声戦争日記」

### 清沢 冽(きよさわ・きよし)

明治23(1890)~昭和20(1945) 長野県生まれ。外交史家。昭和2年朝日記者、著書「自由日本を漁る」(昭和4年)の甘粕正彦と大杉栄の架空対談が右翼の攻撃を受けて退社。自由主義的な外交・政治評論で活躍。戦中日記「暗黒日記」は、貴重な現代史史料となっている

●統制、統制で上から締め付け、法的権限強化を強化して、独裁色を強めていった東条英機内閣

▽東条体制を支えたのが 官製国民団体・大政翼賛会  
その政治組織の翼賛政治会 末端では隣組組織  
憲兵・特高による 監視・抑圧体制だった

「隣組」

岡本一平作詞、飯田信夫作曲のこの歌は昭和15年6月22日から、国民歌謡としてラジオ放送され、隣組を親しみやすいものにした。

「とんとんとんからりと 隣組 格子を開ければ 顔なじみ 廻して頂戴 回覧板 知らせられたり 知らせたり」

▽内務省は 15年9月11日

各道府県に「部落会町内会等整備要領」を訓令

▽国策を隅々まで浸透させる 上意下達機関に  
部落会・町内会 その下部組織として

10戸内外の隣組の整備 強化を急がせた

▽隣組体制が確立すると 出征兵士見送りや  
食糧増産・貯蓄奨励呼びかけ 国債割り当て  
防空でも 地域消防 灯火官制 警報伝達の任務

▽隣組の機能を 最大限に発揮させた

生活必需品の配給 個人生活の領域まで拘束

▽部落会・町内会207,007 隣組1,333,732(17年7月現在)

●東条は大政翼賛会による一元的支配を目指した

▽「国民組織に関する方針」を閣議決定(17年5月15日)

婦人会・青年団の運動は 翼賛会傘下に

部落会・町内会や隣組も 翼賛会の指導下に

▽帝国議会を 政府に協力させる目的で

翼賛選挙(17年4月30日)を実施した

▽東条は「いわゆる政治力の結集は、総選挙直後に  
終わるものと思う」自信満々だったが…

▽政府に協力的な推薦候補は 381人当選  
非推薦候補も 中野正剛をはじめ

尾崎行雄 斎藤隆夫 鳩山一郎ら 85人当選

▽5月20日 翼賛政治会(織阿部信行元首相)を結成  
「政治結社は 翼賛政治会一本」の方針決定

▽「言論・出版・集会・結社等臨時取締法」(16年12月19日)  
により 衆院会派・全右翼団体を 強制的に解散

東条 英機(とうじょう・ひでき)



明治17(1884)～昭和23(1948)東京生まれ。陸軍大将。昭和10年10月  
関東軍憲兵司令官となり参謀長を経て13年陸軍次官。

15年第2次近衛内閣陸相、16年10月首相。戦局悪化で19年2月参謀総長を兼務したが7月総辞職。戦後ピストル自殺未遂。A級戦犯で絞首刑に

大政翼賛会

昭和15年10月12日、近衛文磨首相を中心とする新体制運動推進のために創立された組織。総裁に首相、道府県支部長は知事が兼任するなど官製的な色彩の濃いものだった。国民生活の全てにわたり統制したが、20年6月13日、国民義勇隊結成で解散した。

岡本 一平(おかもと・いっぺい)

明治19(1886)～昭和23(1948)函館生まれ。漫画家。朝日新聞に漫画漫文形式の作品を発表し人気を集めた。小説家・歌人のかの子が夫人、画家太郎は長男

尾崎 行雄(おざき・ゆきお)

安政5(1858)～昭和29(1954)神奈川県生まれ。政治家。第1回総選挙以来、連続当選25回。護憲運動を推進し「憲政の神様」と称される。戦後「名誉議員」の称号

斎藤 隆夫(さいとう・たかお)

明治3(1870)～昭和24(1949)兵庫県生まれ。政治家。昭和15年反軍演説を行い軍部の怒りを買って、議会除名。翼賛選挙では非推薦で最高点当選。戦後国務相

鳩山 一郎(はとやま・いちろう)

明治16(1883)～昭和34(1959)東京生まれ。政治家。昭和21年組閣直前に公職追放となったが、29年日本民主党を結成、首相に。31年日ソ国交回復を実現した

▽「一党一党」主義に押し潰された 諸勢力は  
中野をはじめ 激しい忿懣を抱いた  
▽戦局転換と共に そのエネルギーを「反東条」に  
▽支持・激励を送ってきた 天野辰夫でさえ  
機関誌「維新公論」で「東条批判」を展開

●中野は反東条ではあったが、反戦、反軍ではなかった  
▽平生「一切を天皇と祖国に捧げん」

昭和11年 全体主義政党「東方会」(のち勸業誌)

12年に独伊訪問 急激にファッショ的傾向に  
南進を説き 反米英・日独伊枢軸路線を鼓吹

#### 中野について

福岡の修猷館中学以来の親友で、早大、朝日、  
政界人と、全く同じ道を歩んだ緒方竹虎は、著  
書「人間中野正剛」の中でこう云っている。

「中野君の行動の跡を見ると、政党政治家と  
して最も損な進退のみで…多感なる彼は一念  
発起する毎に到底周辺の事を功利的に考えて  
居れないのである…この政治家としての生活  
力の欠如と、現状に満足し得ない牢騷心とが  
中野を枢軸論に向かって拍車し、昭和十二年  
にヒトラー、ムソリーニ訪問のための彼の欧  
州旅行にまで脱線させたものとしか考えられ  
ない。彼の平生を知る私には、彼のファッショ  
擬いの黒いユニフォーム、ナチのハーケンク  
ロイツに似た徽章、独伊巡礼等、すべて憑き物  
がしたとしか思へなかった…」

やはり朝日に在籍した清沢淵は、中野自殺を  
聞いて日記に、「僕は東亜戦争勃発に続いて  
のショックを受けた…僕はかれを憎んだ。か  
れの思想が戦争を起したのである。だがかれ  
の自殺を見て、僕はその罪を許してやる気持  
になった。けだし僕も日本的伝統を心深く持  
っているのである」と書いている。

●中野は17年12月20日、「東条独裁」に宣戦布告

▽日比谷公会堂で「時局批判大演説会」

「奴隷体制を打破せよ」4時間の演説に

満員の聴衆は 惜しみない拍手を送った

▽18年元日付朝日に「戦時宰相論」で追い打ち

阿部 信行(あべののぶき)

明治8(1875)～昭和28(1953) 石川県生  
まれ。陸軍大将。昭和14年首相に就任し  
たが5か月で辞職。中国大使、朝鮮総督

天野 辰夫(あまのたつお)

明治25(1892)～昭和49(1974) 静岡県生  
まれ。弁護士、国家主義運動家。愛国勤  
労党、勤王まことむすびの会を結成、昭  
和8年には斎藤實内閣打倒を企てた「神  
兵隊事件」を起こし検挙される

緒方 竹虎(おがた・たけとら)

明治21(1888)～昭和31(1956) 山形県生  
まれ。ジャーナリスト、政治家。東京朝  
日新聞に入り主筆、副社長。昭和19年小  
磯内閣國務相。27年衆議院に当選、吉田  
内閣官房長官、副総理。自由党総裁とな  
り、保守合同を推進。鳩山一郎首相の後  
継者と目されていたが急死した

#### 「戦時宰相論」

「誠忠・絶対に強かれ」と四段見出しの  
論文は、「…非常時宰相は絶対に強きを  
要する。されど個人の強さには限りが  
ある。宰相として真に強からんがため  
には、国民の愛国熱と同化し、時にこれ  
を鼓舞し、時にこれを激励さるること  
が必要である」。中野は非常時宰相の典  
型として孔明を挙げ、「彼は虚名を求め  
ず、英雄を気取らず、専ら君主の為に人  
材を推挽し、寧ろ己れの盛名を厭うて、  
本質的に国家の全責任を担ってゐる…  
彼は敗戦の際には、国民の前に包まず  
其の始末を公表し、自らを責めて、天下  
の諒解と忠言を求めた」。孔明がそれが  
出来たのは、「彼は誠忠なるが故に謹慎  
であり、謹慎なるが故に廉潔である」。

さらに、日露戦争の時の首相桂太郎を  
挙げて、「桂公は寧ろ貫禄なき首相であ  
った。彼は孔明のやうに謹慎には見え  
なかったが、陛下の御為に天下の人材

▽新年企画として立案した 朝日の担当者は

「戦局は次第に逆転、勝った、勝ったの大本営発表浮かれている時ではない。国内の政治体制をもう一度検討してみる必要はないか、戦時内閣はいかにあるべきか、という考えから提案した」

▽執筆の依頼を受けた中野は「諸葛孔明の出師の表を思い浮かべ、四十分にして書く。一文の趣旨は東条に謹慎を求むるにあるのだ」

「出師の表」(すしのみょう)

中国・三国時代の蜀の宰相諸葛孔明(181~234)が227年の出陣に際し、主君劉禪に奉じた上表文。先君劉備の遺徳を高めるように説いた、誠忠の情あふれた名文として有名。

▽中野はまず「国は経済によりて滅びず、敗戦によりてすら滅びず、指導者が自信を喪失し、国民が帰趨に迷ふことによりて滅びる」と書いて

古今東西の宰相を例に挙げ 東条を批判した

▽「難局日本の名宰相は絶対に強くなければならぬ。強からんが為には、誠忠に謹慎に、而して気宇壮大でなければならぬ」と 格調高く結んだ

▽情報局の事前検閲では 一字一句も削除されずに通った「東条を激励する意味」に解釈

東条は激怒した

「驕慢の極に達した東条は朝食の卓上これ一見するなり、怒気満面、傍らの電話機を取り上げ、彼自ら情報局に朝日新聞の発売禁止を命じた」(緒方「人間中野正剛」)

●言論全面禁圧に「戦時刑事特別法」改正を提案

▽第81議会(18年1開会)は 中野や斎藤隆夫が 宣伝 言論活動まで 処罰の対象としたことに「東条独裁になる」と強硬に反対 紛糾した

▽「戦時行政職権特例法」も提案され

「東条ワンマンだ」と 議会の反発は強かった

●中野は筆も口も封じられたが、引き下がらなかった

▽「東条内閣打倒」のため

近衛文麿前首相など 重臣工作に動き出す

を活用して専ら実質上の責任者を以て任じた。山県公(山縣)に頭が上がりず、井上侯(井上)に叱られ、伊藤公(伊藤)を奉り、それで外交に天下の賢才小村(小村)を用ひ、出征軍に大山(大山)を頂き 連合艦隊に東郷(東郷)を推し、鬼才児玉源太郎をして文武の聯絡たらしめ、傲岸なる山本権兵衛をも懼れずして閣内の重鎮とした。…桂公は横着なるかに見えて、心の奥底に誠忠と謹慎とを蔵し、それがあの大幅にして剩す所なき人材動員となって現はれたのではないかと、天下の人材の活用を訴えた。

●●● 戦時刑事特別法 ●●●

昭和17年2月24日制定の第七条ノ三は、「戦時ニ際シ国政を紊乱スルコトヲ目的トシテ騒擾ノ罪其ノ他治安ヲ害スヘキ罪ノ実行ニ関シ協議又ハ其ノ実行ヲ煽動シタル者ハ七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ処ス」となっていた。

改正案では第七条ノ四「戦時ニ際シ国政ヲ紊乱シ其ノ他安寧秩序ヲ紊乱スルコトヲ目的トシ著シク治安ヲ害スヘキ罪ノ実行ニ関スル事項ヲ宣伝シタル者亦前条ニ同シ」の規定を追加して、18年3月13日に改正公布。

●●● 戦時行政職権特例法 ●●●

東条内閣は、戦時生産行政の面で首相の権限を強化するため、昭和18年3月18日に公布施行した。明治憲法では「國務各大臣ガ天皇ヲ輔弼スル」とだけ定めて、総理大臣の規定はなく、首相は「同輩中の首位」に過ぎなかった。この大臣権限の首相一元化には、帝国議会誌が「世間デハ之ヲ目シテ首相ノ『ワンマン・コントロール』ダトモ解釈シ又ハ総理統裁主義ナドト云ツテ居ル」と記録し、批判した。

## 中野の考え

このままでは戦争は負ける。万一勝ったところで、軍閥、官僚の暴政はますます募り日本はきつと滅亡する。テロで東条を倒すことは易しいが、必ず第二、第三の東条が出てくる。戒厳令や軍政を誘発すれば、軍閥の思う壺、それで日本は終わりだ。言論を禁圧され、国民に呼びかける手段を封殺された今、日本を救う道はただ一つ、重臣を動かし東条内閣を打倒するより外に手はない。

### ●中野の動きは、たちまち憲兵にキャッチされた

#### ▽近衛の軽井沢の別邸に

東京憲兵隊長 四方諒二(しやう・りやうじ)大佐が来て「あなたは中野と会われたでしょう。あなた方が中野なぞ倒閣の陰謀をされていると云う、専らの噂ですから、ご注意に上がったんです」

▽東条は憲兵司令部に 反東条派取り締まりを指示 警務課長の美座大佐は「憲兵が陸軍大臣の指示に従うのは当然だが、首相の政治問題に関与することは誤りであり、軍事警察の面を徒に拡大して憲兵本来の使命を逸脱し、憲兵が国民怨嗟的になる恐れがある」と反対 左遷された

▽東条は 内相に中野検挙を命じた

戦時刑事特別法違反 倒閣画策が国政素乱に

▽三田村武夫代議士(東郷誌・18年9月6日誌)を皮切りに 右翼関係者170人を一斉検挙

中野も10月21日 警視庁に留置された

▽いくら調べても 決め手となる証拠が出てこない

▽第83議会は 10月25日召集 26日開院式 国会議員には「不逮捕特権」(憲第53条)

▽24日夜 首相官邸に 異例の緊急会議招集

内相 警視總監 松阪広政検事総長に 四方

▽東条は「起訴しろ」「裁判所の勾留状をとれ」

松阪は「新事実が出れば考えましょう」と折れた

▽四方が「警視庁でダメなら私の方で調べてみましょう」 中野は25日早朝 東京憲兵隊に

▽正午ごろ 四方から松阪に電話

「中野が「ガダルカナルで負けたのは、陸海軍の間に不一致があったためだと語ったことがある」。こう自白しているから勾留請求してくれ」

## 近衛 文麿(このゑ・ふみまろ)

明治24(1891)～昭和20(1945)東京生まれ。公爵。昭和12年6月首相。直後に勃発した支那事変で「国民政府对手ニセズ」と声明、早期収拾に失敗。14年1月辞職し枢密院議長。15年7月第2次内閣を組織、日独伊三国同盟締結。16年7月南部仏印進駐で対米関係悪化、松岡洋右外相を更迭し第3次内閣を組閣したが、日米交渉妥結の展望を失い、10月総辞職。敗戦後戦犯に指名され、服毒自殺



## 中野の倒閣構想

- ・重臣会議を開いて東条に引導を渡す。
- ・総辞職後は宇垣一成を後継内閣首班に推す。
- ・この際、徹底的な軍縮を断行する。政治軍人の政治面からの一掃 各官庁あるいは軍需会社からの軍人の追放 東条以下軍閥の主流をなす現役軍人を予備役にする

## 宇垣 一成(うがき・かずしげ)

慶応4(1868)～昭和31(1956)岡山県生まれ。陸軍大将。大正13年陸相となり14年に4個師団廃止の「宇垣軍縮」を断行。5代の内閣で陸相を務め、「宇垣時代」を築いたが、昭和12年1月、二・二六事件直後に組閣の大命を受けたものの陸軍部内の反対で断念。第1次近衛内閣外相。戦後参議院議員。著に「一如庵随想録」

## 松阪 広政(まつさか・ひろまさ)

明治17(1884)～昭和35(1960)京都府生まれ。大審院判事を経て、昭和16年検事総長。19年から小磯、鈴木内閣法相

▽検事たちは反対したが 松阪は総長命令  
▽25日夜 検事局思想部長・中村登音夫検事名で  
陸軍刑法・海軍刑法違反で 強制処分の勾留請求

●小林健治・予審判事(東京府裁判所)は、上席判事の「きょう中にやってほしい」の電話に「おかしい」と思った  
▽召集は「議会に集まれ」と云う天皇の命令だ 天皇  
が集めた者を引っ括る こんなことでいいのか  
召集日は議長などの選出 院の成立を図る日だ  
これも「不逮捕特権」として 保護しなければなら  
ない職務ではないのか

▽大急ぎで 図書館から憲法の本を借りて調べたが  
どの本も「会期は開院の詔書を以て始まる」

こう書いてあっても 会期の説明はない

▽伊藤博文の書いた「憲法義解(けんぽうぎ)」を見たら  
第53条に「会期中とは召集の後、閉会の前を  
云う」 召集日も会期中に入ると云うこと

▽小林は夜9時半 請求を認めない決定を下した

▽総長決済に憤慨していた検事は みんな喜色満面

●中野は、すぐ帰宅が許されたわけではなかった

▽その夜は警視庁に泊められ 26早朝

四方が憲兵隊に連行 帰宅は午後2時ごろ

▽憲兵隊で 何があったのか？

▽中野は 極めて朗らかに 家族団欒の後

髭を剃り 紋付羽織袴に身を正して 書齋に

▽翌朝 女中さんが 腹を真一文字に掻き切り

返す刀で 頸動脈を切断した中野を 発見

▽中野57歳 隣室にいた 監視の2人の憲兵が  
気付かないほどの 静けさの中で行なわれた

#### 小林判事の戦後の回想

「中野に「裁判所は憲法に従って、議員たるあなたを拘束しませんよ。あすから議会で活躍して下さい」とでも云っていたら、あるいは中野は死ななかつたのではないか」。

▽中野は 議会が終われば 再び憲兵隊の取り調べ  
重臣工作には東久瀨宮も 迷惑を恐れた？

▽長男達彦伍長が 東部第十部隊に入営中  
その安全と引き替えに 自決を迫った？

#### 中野の被疑事実

「被疑者八大東亜戦争下ナル昭和一八年二月上旬…被疑者宅ニ於テ洲崎義郎及泉三郎兩名ニ対シ何等確實ナル根拠ナクシテ大東亜戦争ニ於ケル陸軍及海軍ノ作戦ニ不一致アリ、右不一致ノ為、ガダルカナルノ会戦ハ作戦ニ失敗シ其ノ為数万ノ犠牲者出シタルモノナル趣旨ノ言説ヲ為シ以テ陸軍及海軍ノ軍事ニ関シ造言飛語ヲ為シタルモノナリ」

洲崎、泉は東方同志会会員で、いわば身内のこんな座談でさえ検挙の対象になったのは、いかに言論の自由が奪われていたかを物語っている。

#### 伊藤 博文(いとう・ひろぶみ)

天保12(1841)～明治42(1909)山口県生まれ。公爵。明治18年に内閣制度を創設し初代首相。22年明治憲法を制定。33年政友会を創立し4度首相。初代韓国統監となりハルビンで暗殺された

#### 小林判事の請求棄却決定

「帝国議会ノ会期中ナル現在、右被疑事実ニ付キ同人ヲ勾留スルニ付テハ、其ノ院ノ許諾ヲ要スルモノト思料仕リ候、然ルニ之カ許諾ヲ求メタル事跡ナキ本件強制処分ノ請求ハ憲法第五十三条ニ違反シ、刑事訴訟法第二百五十条ノ形式的要件ヲ欠如スル不適法ノモノト思考セラレ候条、此ノ請求ニハ応ジ難ク、此ノ段御通知申上候」

#### 中野の遺書

東向九拜、平静、余裕綽々、自笑  
断十二時  
魂魄躍動、皇国を護る



- ▽「東条独裁」に対する 壮絶な抵抗だった
- ▽中野の葬儀は 緒方が委員長となり  
青山斎場で2万人が参列 盛大に行なわれた
- ▽第83議会からは 迅速審議という名目で  
首相の施政方針に対する代表質問も  
本会議の質問も 一切取り止めに

●東条政治の特色は「憲兵政治」

東条を取り巻く側近連中を「三奸四愚」

三奸は企画院総裁鈴木貞一、憲兵司令官加藤泊治郎(かとう・はくじろう)、内閣書記官長の星野直樹あるいは東京憲兵隊長の四方諒二。

四愚は陸軍次官木村兵太郎、軍務局長佐藤賢了、作戦部長の真田穰一郎(まんだ・じょういちろう)、首相秘書官の赤松貞雄(あかまつ・さだお)が定説。

- ▽東条が 憲兵を使う味を覚えたのは  
昭和10年 関東軍憲兵司令官になってから
- ▽高級副官の四方は 異色の軍人だった  
東京外語でドイツ語を学び 憲兵学校を首席で  
東大法学部の派遣学生として 法律を3年間
- ▽首相になった東条により 東京憲兵隊長に抜擢
- ▽警察力を持つ憲兵を うまく使えば  
情報をとること 工作をすること  
法律に捉われずに人を脅し 強権を揮うことも
- ▽政治的敵対者の攻撃 弾圧に  
これほど 絶好の組織はなかった
- ▽東条は 首都憲兵を握り 意のまま動かす態勢を

●面倒見のいい反面、楯突く者を徹底的に嫌った

- ▽民間人にまで 権力を使って懲罰人事
- ▽「中野事件」の中村検事も 43歳で召集
- ▽東条は 中野を勾留出来なかったことに  
検事局の不手際だと 怒った  
「思想部長検事なのに、自由主義の牙城である裁判所を擁護してけしからん。こんな手緩い検事は国策上許せない」と 東条の命令
- ▽兵役法が改正(18年11月1日)され  
兵役服務年限40歳が 45歳に延長に  
中村検事は その適用第1号

東久邇 稔彦(ひしくに・なるひこ)

明治20(1887)～平成2(1990) 京都生まれ。陸軍大将。昭和16年防衛司令官。20年8月初の皇族内閣を組織し、戦後処理に当たる。22年皇族籍を離脱

鈴木 貞一(すずき・ていいち)

明治21(1888)～平成1(1989) 千葉県生まれ。陸軍中将。昭和16年4月、國務相企画院総裁となり戦時の物資動員計画を推進。A級戦犯で終身禁固刑。31年釈放

星野 直樹(ほしの・なおき)

明治25(1892)～昭和53(1978) 横浜市生まれ。満州国総務長官、企画院総裁を経て、昭和16年東条内閣書記官長。A級戦犯で終身禁固刑。33年釈放

木村 兵太郎(きむら・へいたろう)

明治21(1888)～昭和23(1948) 埼玉県生まれ。陸軍大将。昭和16年東条陸相の下で陸軍次官。ビルマ方面軍司令官。戦後東条の腹心と見做されA級戦犯で刑死

佐藤 賢了(さとう・けんりょう)

明治28(1895)～昭和50(1975) 石川県生まれ。陸軍中将。昭和17年軍務局長となり、A級戦犯で終身禁固刑。31年出所

…… 東条に嫌われた人 ……

陸士14期で東条の3年先輩の西尾寿造(にしお・ちゅうぞう)大将は、関西視察中に記者団に「話が聞きたかったら、よくステッキの先でゴミ箱を漁る男がいるだろう。あれに聞いたらいいいよ」。

毎朝散歩の際、国民生活の実態を知ろうとゴミ箱を覗いて「電撃宰相」ともてはやされた東条を暗に皮肉ったのだが、さっそく憲兵がご注進、予備役に編入された。西尾は東条失脚後、第2代東京都長官に返り咲いた。

▽松前重義さん(当時・逓信省逓信院防衛施設局長)も  
倒閣運動をやって 42歳で指名召集  
東条内閣総辞職の日(19年7月18日)

▽篠原登さん(別科技術士官)が一縷の望みを持って  
陸軍省に 召集解除を頼みに行ったところ  
富永恭次(とみながきょうじ)次官は 直立不動の姿勢で  
「これは東条閣下直接のご命令だから、  
絶対に解除出来ぬ」と言い放った

▽内閣も陸相も代わり 松前さんは10か月後  
台湾・高雄まで送られたところで 召集解除に

▽毎日新聞 新名丈夫(しんみやう・たけお)記者は  
「勝利か滅亡か 竹槍では間に合はぬ  
飛行機だ 海洋航空機だ」(19年2月23日附)

▽毎日には発禁 新名記者も二等兵で指名召集に

▽中野が東条に「謹慎」を求めたのは このやり方

### ●陸軍報道部から睨まれた「中央公論」と「改造」

▽中央公論は 18年新年号から

谷崎潤一郎の「細雪」を連載

戦時色一色の中で 読者から歓迎された

▽報道部は「緊迫した戦時下、極めて個人主義的な  
有閑マダム生活を、めんめんと書き連ねたこの  
小説は到底許しがたい。こうした小説を連載  
する雑誌は不謹慎であり、戦争傍観の態度だ」

▽陸軍は 陸軍記念日(3月10日)の決戦標語として

神武東征の歌「撃ちてし止まぬ」を決め

雑誌の表紙に この言葉を掲載するよう要請

中央公論だけが 載せなかった

▽朝日新聞は 宮本三郎画伯描く

「撃ちてし止まぬ」を 百畳じきの写真にして

日劇正面の壁面を デカデカと飾っていた

▽陸軍報道部は 中央公論に「軍に対する挑戦であり  
何らかの措置を以て臨む」と通告

▽中央公論は 6月号に「細雪連載中止」のお断わり

「お断わり」決戦段階たる現下の諸要請より  
みて、或ひは好ましからざる影響あるや  
を省み、この点遺憾に堪へず、ここに自肅的  
立場から今後の掲載を中止いたしました。

### 松前 重義(まつまえ・じげい)

明治34(1901)～平成3(1991) 熊本県生  
まれ。逓信省に入り昭和7年電話通信の  
無装荷ケーブル方式を発明。19年、東条  
首相批判をして二等兵で召集。復員後、  
逓信院総裁。社会党衆議院議員を経て、  
42年東海大を頂点とする東海学園総長

#### — 政府発表の数字は本当か? —

松前さんは、戦前アメリカの工場を  
視察した時、生産力が日本に比べ、桁  
外れに大きいことに驚いた。しかも、  
アメリカが発表する兵器や軍需物資  
の生産量は膨大なものだった。

軍部はデタラメだと云うが、松前さ  
んは日本の生産力の現状を厳密に調  
査分析して、戦争の無謀さを立証し、  
早く終わらせなければならぬと考  
えた。各省から信頼する中堅の第一  
線技術者を集めて、鉄、石炭、アルミ、  
電力や輸送力の生のデータを持ち寄  
り、軍需生産の現状と見通しの分析、  
検討を始めた。その結果、企画院発表  
の実績数字は実際とは全くかけ離れた  
水増し数字とわかった。

松前さんは、「このままの体制では、  
いくら東条首相が「必勝の信念」とい  
う念仏を唱えても、惨憺たる滅亡あ  
るのみだ」。そう思って軍令部の課長  
以上の会合で調査結果を説明、軽井  
沢に出かけて行って、近衛、鳩山一郎  
らにも東条内閣倒閣を働きかけた。

### 谷崎 潤一郎(たにざき・じゅんいちろう)

明治19(1886)～昭和40(1965) 東京生ま  
れ。作家。昭和18年連載開始の「細雪」は  
軍部の圧力で連載中止となったが、そ  
の後も執筆を続け23年完結。著に「痴人  
の愛」「卍(まんじ)」「蓼喰ふ虫」「瘋癲老人  
日記」。24年文化勲章受章

●「横浜事件」の摘発が進められていた

「横浜事件」と云うのは この言論弾圧事件の摘発が、「カナトク」と云って、拷問の激しいことで恐れられた神奈川県警察特高課によって進められ、取り調べが横浜市内の警察署で行なわれたから。

- ▽発端は 改造(17年8・9月号)に掲載された 細川嘉六の論文「世界史の動向と日本」
- ▽情報局の事前検閲は パスしていたが 陸軍報道部は「共産主義の宣伝」と断定
- ▽改造は発禁 細川も出版法違反で逮捕(17年9月14日)
- ▽「カナトク」は 17年9月12日 日米交換船「浅間丸」で アメリカから帰国した 川田寿夫妻(別冊研究家)を 治安維持法違反で逮捕 「米国共産党の指導で 日本共産党再建の活動」

●拷問によって事件は作られた

- ▽川田の関係先を捜索するうち 1枚の写真を発見
- ▽細川が 本の印税が入ったので 日頃 世話になっている 中央公論・改造社員を 郷里・富山県泊町の旅館に招いた 記念写真
- ▽「これこそ、細川を中心とする共産党再建謀議の 動かぬ証拠だ」 18年5月26日 写真に写っていた全員から 芋蔓式検挙に
- ▽細川の身柄も 治安維持法違反で「カナトク」へ

凄まじい拷問 ..... 戦後、出所直後に亡くなった改造編集者の相川博さんは、手記にこう書いている。

「八名の警察官が取調室にずらりと並び、竹刀を折って作った三尺位の竹を持ち、直ちに私の両手を後ろ手に縛り上げ、「共産党の組織を云え、細川がスターリンで貴様は秘書か。下部組織を云え、泊で共産党再建の協議会を開いたろう」。私の頭髪を掴んでコンクリートの上を引き回し、頭、両頬、両肩、両腿、両腕を実に約一時間にわたり数人が入れ替り立ち替りカ一杯に打ち、靴でけり、顔、頭を踏み付けた」

宮本 三郎(みやもと・さぶろう)

明治38(1905)～昭和49(1974)石川県生まれ。洋画家。昭和13年渡仏、翌年帰国し、従軍画家として戦争記録画を制作。18年には「山下・パーシバル両司令官会見図」で帝国芸術院賞。戦後22年に二紀会を結成、33年日本美術家連盟理事長。多摩美大、金沢美術工芸大教授

細川 嘉六(ほそかわ・かく)

明治21(1888)～昭和37(1962)富山県生まれ。評論家、著述家。昭和17年改造に発表した論文が共産党の宣伝だとして検挙され、「横浜事件」の発端となる。20年共産党に入党し、22年参議院議員。著に「細川嘉六著作集」

治安維持法

大正14年3月7日、衆議院で修正可決され5月から施行された。敗戦まで20年間、言論、思想から学問の自由を抑圧する武器となった。

法律の目的は、初めは共産主義運動弾圧だったが、戦争と共に反戦思想、反政府言動の取り締まりに最大限に活用された。罰則も次第に重くなり、最初は10年以下の懲役か禁固だったのに、昭和3年6月に死刑または無期に引き上げられた。しかも「国体を変革」とか「結社」とか、文言の解釈次第ではどのようにでも引っ掛けることが出来たし、控訴も許されなかった。

第一条 国体ヲ変革スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ七年以上ノ懲役ニ処シ情ヲ知りテ結社ニ加入シタル者又ハ結社ノ目的遂行ノ為ニスル行為ヲ為シタル者ハ三年以下ノ有期懲役ニ処ス

### ▽特高の描いた筋書きは

雑誌編集者や知識人が 雑誌 地位を利用し  
共産党再建運動を行い 人民戦線を形成して  
知識階級の反戦気運を 煽ろうとした

### ▽19年1月には 検挙者は

朝日新聞 岩波書店にも広がり 60人に  
激しい拷問は 敗戦まで続けられた

### ▽情報局は19年7月10日 中央公論 改造に 「自発的廃業」の形で 解散を命令

## ●横浜地裁は敗戦後、33人に有罪判決

### ▽8月30日から9月にかけて 懲役2年(新潟州)

たった1回 非公開 意見陳述もさせずに

### ▽細川の方は 公訴事実を否定 裁判が続いている

治安維持法の廃止(20年10月15日)で 免訴に

### ▽元被告や遺族は「特高の拷問や虚偽の自白に基づ く判決は無効」と 再審申し立て(61年7月)

### ▽横浜地裁は「当時の裁判記録が消失し、事実が確 認出来ない」と云う理由で 棄却した

### ▽最高裁まで争われたが 第二次請求も同じ理由で

### ▽第三次請求は 平成10年8月

「ポツダム宣言受諾の時点で、治安維持法は効力  
を失っている」と 法令適用の誤りを理由に

### ▽横浜地裁は 平成15年4月15日

再審決定を認める判決 一次請求以来17年

## ●中野や松前さんの行動は、命懸けのものだった

### ▽連戦連勝に沸き立つ 開戦直後(16年12月29日)

東久邇宮は 東条に和平交渉を提案「緒戦の情  
勢が有利なので、シンガポールが陥落した時点  
で、米英に対し和平工作を進めるべきだ」

### ▽「この時機に和平など考えるべきではない」と

東条に一蹴されたが 宮様だから出来たこと

### ▽東郷茂徳外相が 17年2月の衆議院質疑で

「戦争を終結して平和に導くことは、当然かつ必  
要であり、十分の準備と覚悟を持っている」

### ▽こう答弁したところ 議員から「敵を撃滅するのが

戦争目的なのに、講和について準備するのは失  
言だ、取り消せ」と 抗議が出る始末

### ▽外務省の中にも「戦争中、外交は無用」の声

## 拷問警官は？

元被告は昭和22年、拷問警官30人余  
りを人権蹂躪、傷害で告訴したが、証  
拠湮滅されていてほとんどが証拠不  
十分で不起訴。わずかに3人が、被害  
者に残っていた傷跡が決め手となっ  
て、27年4月に有罪判決を受けたもの  
の、控訴、上告で争っているうちに講  
和恩赦で刑を受けずに終わった。

## 1か月半早く決定が出ていたら

元被告の最後の生存者・板井庄作さ  
んが平成15年3月31日、肺炎で86歳で  
亡くなった。

板井さんは昭和14年、東京帝大電気  
工学科を卒業して逓信省電気庁に入  
ったが、仲間と作った「政治経済研究  
会」が、共産主義の宣伝活動と見做さ  
れ、18年9月に逮捕された。

懲役2年、執行猶予3年の判決を受け  
たが、再審請求の時「過去の過ちが正  
されなければ、これからも同じ過ち  
が繰り返される。裁判では一度も言  
い分を聞いて貰えなかった。生き残  
りは僕だけになった。犯罪者として  
一生を終えたくない。死ぬに死ねな  
い」と云っていた。

## 東郷 茂徳(とうごう・しげのり)

明治15(1882)～昭和25(1950)鹿児島県  
生まれ。外交官。駐独・駐ソ大使を経て、  
昭和16年東条内閣外相兼拓務相に就任  
し、日米交渉に当たる。17年大東亜省設  
置に反対し辞任。20年鈴木内閣外相と  
なり、終戦に向けて努力する。A級戦犯  
で禁固20年の判決を受け、拘禁中病死。  
著に「時代の一面 大戦外交の手記」

▽東郷は17年元日 外務省の年頭訓示で  
戦時外交の重要さを強調したが  
押せ押せムードの中  
妥協講和の動きは なかなか生まれなかった

●武藤章陸軍軍務局長も「東条ではダメ」

東郷の手記「時代の一面」から

「ここに想起するのは、右訓示を与えた午後、武藤軍務局長が年始の挨拶に来訪して時局談に及び、戦争はなるだけ急速に終結するのが日本にとり得策であるので、是非その方向に動かさるることを願望するが、それには東条大将に総理をやめて貰う必要があると云ったが、その足で岡田大将(剛毅)をも訪ねて同様のことを述べたと云うことであった。

なおこの種のことが東条の耳に入って、同人の南方転出を見るに至ったとの噂があった。軍部の策動については同人も与って力ある次第であるが、当時の軍部にあつて政治的感覚を有しているほうであった」

▽武藤は 軍務局長として2年7か月  
陸軍の政治意思を 決めてきた人物  
17年4月 近衛第2師団長(マトラ)に転出

昭和陸軍の代表的な政治軍人

武藤は、昭和11年の二・二六事件直後、広田弘毅首相の組閣本部に乗り込み、外相候補・吉田茂の人事を撤回させた。12年の蘆溝橋事件で、参謀本部作戦課長の武藤は石原莞爾作戦部長の不拡大方針に反対して、支那事変へと拡大させた一人だった。

武藤は拡大派と云うよりは、対支腐懲派だったが、その後2年間、中支・北支派遣軍参謀副長として戦地を自分の目で見て、中国の民衆戦争になっていることを実感、「支那事変を早く解決しなければ」の決意を持って帰国した。

軍務局長になった武藤は、中国撤兵案を作り蒋介石との和平解決の準備を進めたが、そこへドイツ軍の破竹のヨーロッパ席捲が始まった。日本中が南進論に傾き、米内光政内閣を倒

東郷の年頭訓示

「力及ばずしてついに戦争になってしまったが、我々はこの戦争を日本に最も有利なうちに切り上げなければならぬ。外務省員は他の任務は放擲しても、このことの研究と準備に力を尽くしてもらいたい」

武藤 章(むとう・あきら)

明治25(1892)～昭和23(1948)熊本県生まれ。陸軍中将。昭和14年から17年まで軍務局長。その間近衛政権樹立を図り、日独伊三国同盟・日ソ中立条約締結、大政翼賛会結成を推進した。19年第4方面軍参謀長。戦後A級戦犯となり刑死

岡田 啓介(おか・けいすけ)

慶応4(1868)～昭和27(1952)福井県生まれ。海軍大将。連合艦隊司令長官を経て昭和2年海相。9年7月首相となったが、二・二六事件で襲撃され、総辞職。重臣として戦争早期終結のため、東条内閣倒閣運動の中心となって動く



広田 弘毅(ひろた・こうき)

明治11(1878)～昭和23(1948)福岡県生まれ。外相を経て二・二六事件直後に首相。A級戦犯で文官でただ一人絞首刑

吉田 茂(よした・しげる)

明治11(1878)～昭和42(1967)東京生まれ。外務次官、駐英大使を経て昭和14年退官。日米開戦に反対、開戦後も近衛らに和平工作を働きかけ20年憲兵隊に検査。21年第1次内閣を組織し民自党総裁となり5次の内閣を組織、ワンマン宰相と呼ばれ、38年引退後も「保守本流の元老」として政界に大きな影響力を持つ。死後国葬。重臣牧野伸顕の女婿

して第2次近衛内閣、日独伊三国同盟を推進したのも武藤だった。

そうかと思えば日米交渉の土壇場で、交渉を軌道に乗せるため吉田茂が南部仏印からの撤兵を柱とした対米交渉案を出した時、武藤は強硬に反対する参謀本部を説得した。

陸軍には珍しい現実主義の軍人だったが、部内で「カメレオン」とあだ名されたように、余りにも権謀術数に走り過ぎて、理想に徹する強さがなかったところに、武藤の悲劇があったのではないか。

### ●和平に向け最も早く行動を起こした吉田茂

▽17年6月11日 木戸内大臣を訪ね

近衛を 中立国スイスに派遣し

和平のチャンスを捉えるよう 申し入れた

▽近衛にも説得したが 近衛の態度ははっきりせず

木戸も乗り気を示さず そのまま流れた

吉田も 和平政権樹立に向け 東条内閣倒閣運動

#### 稀にみる情報通の近衛

五摂家筆頭の公爵として、皇室に最も近い存在である近衛は、よく人の話を聞く「聞き上手」だったからあらゆる情報が集まった。当時の政治家で軍から官界、政財界、左右両翼に至るまで、近衛ほど広範囲の情報網を持っていた人はいなかった。

近衛は開戦の日、娘婿で首相秘書官をした細川護貞さんに「この戦争は負ける。どうやって負けるか、お前はこれから研究しろ。それを研究するのが政治家の務めだ」と云ったと云う。しかし近衛の欠点は、人を動かすことに熱心であっても、自身は腰を上げず、実行となると誠に頼りない存在だった。

### ●重臣たちを倒閣に結束させた岡田啓介

▽近衛に負けない 強力な情報源

長男・貞外茂(さだとも・19年2月歿) 中佐は 軍令部参謀  
娘婿・迫水久常は 企画院課長のエリート官僚

### 米内 光政(よひ・みつさ)

明治13(1880)～昭和23(1948) 岩手県生まれ。海軍大将。昭和12年海相、15年1月首相。日独伊三国同盟に反対、陸軍の協力が得られず7月総辞職。19年再び海相となり、戦争終結、海軍解体に当たる

#### 武藤の述懐

大谷敬二郎少将(勳四等)はスマトラに武藤を訪ねた時、こう述懐したのが忘れられないと云っている。

「僕は軍務局長としてはダラ幹と云われ、卑怯者と罵られながら、何とかして日米妥結に努力した。時に強いことを云ってみたり、時には軟弱論を吐いたり、僕がここ数か月歩いてきた道はまことにジグザグだった。そしてついに戦争になった。軍の強硬連中は緒戦の成功に酔って、もはや英帝国は滅亡すると信じているようだが、僕はそうは思わない。老大英帝国が滅亡するなどと考えたら、大変な間違いだ」

### 細川 護貞(ほしかわ・もりさだ)

明治45(1912)～ 熊本県生まれ。政治家。元首相細川護熙さんの父。昭和15年第2次近衛内閣で首相秘書官。著に「情報天皇に達せず」

#### 重臣の拝謁

開戦以来、重臣の拝謁は長い間行なわれていなかった。木戸内大臣は、重臣に拝謁の希望があることは知っていたし、取り次ぎたい気持ちも山々だったが、拝謁はすぐ外に漏れる。重臣が平和論者であることは通説だったし、拝謁したとなれば、天皇に和平を進言したと疑われる。木戸は、それが和平思想弾圧になるのを恐れた。

義弟・松尾伝蔵大佐(二・二六事件で戦死)の娘婿が

参謀本部の少佐参謀 瀬島龍三さん

▽3人と毎月1回会食して 情報交換

国力・戦力の実情 厳しい戦局も把握していた

#### 岡田の構想

このまま戦争を続けていけば、日本は国力の最後まで使い果たし、徹底的に破壊されて、無残な滅び方をしなければならない。勝負がはっきりついたからには、一刻も早く戦争を終結させる道を考えた方がよい。しかし、終戦と云うことは、戦争を始めた内閣には出来ないことだ。しかも東条のやり方を見ていると、戦争一本槍で突っ走っているばかりだ。まず東条内閣を倒して和平内閣を作る。和平内閣が無理なら、そのための橋渡しとして中間内閣を作り、ついで和平内閣に持って行く。

▽岡田は 木戸を動かすことが先決だと見た

18年8月7日 岡田の指示で 迫水が木戸訪問

#### 迫水・木戸のやりとり

迫水が、東条を参謀総長にして戦争指導に専念させ、首相は別の人にやらせる案を出すと、木戸は「内大臣と云うものは鏡のようなもの、つまり世間の情勢を映して、そのまま陛下にお目にかかる役割をするものだ。もし世論が、東条内閣に反対だと云うことになったら、その時は陛下にお取り次ぎをする」。

迫水が「新聞は検閲制度で口を封じられているし、議会も翼賛政治だ。内心、東条に反対している者がいても、表に出せる状態ではない。そうすると形の上で世論は表に現われてこない」と云うと、木戸は「世論と云うのは、そう云う形の上のものばかりでもあるまい。例えば、重臣たちが一致してあることを考えたとする。それも一つの世論ではないか」。

▽岡田は「味のある発言だ、いい暗示」と見た

▽近衛 若槻礼次郎 平沼騏一郎と相談

月1回 重臣が集まり 東条を招待することに

▽終局的には 東条をいびり 退陣に持って行く狙い

迫水 久常(さかみず・ひさつね)

明治35(1902)～昭和52(1977) 鹿児島県生まれ。大蔵省に入り二・二六事件の時に岳父・岡田首相の秘書官。昭和20年鈴木内閣書記官長となり、終戦に尽力。戦後は池田内閣経企庁長官、郵政相。

瀬島 龍三(せじま・りゅうぞう)

明治44(1911)～ 富山県生まれ。昭和20年関東軍参謀。敗戦後ソ連に抑留、31年帰国。伊藤忠商事に入社、53年会長

若槻 礼次郎(わかき・れいじろう)

慶応2(1866)～昭和24(1949) 島根県生まれ。蔵相、内相を経て大正15年首相となったが、金融恐慌で昭和2年総辞職。5年ロンドン海軍軍縮会議全権として条約締結に尽力。6年再び首相となるも満州事変が勃発、軍部の圧力で8か月で辞職。著に「古風庵回顧録」

平沼 騏一郎(ひらぬま・きいちろう)

慶応3(1867)～昭和27(1952) 岡山県生まれ。検事総長、大審院長、法相を歴任。右翼結社「国本社」を主宰し美濃部達吉の天皇機関説では攻撃の先鋒だった。昭和11年枢密院議長、14年首相。独ソ不可侵条約締結に「欧州情勢は複雑怪奇」の声明を発して辞職。A級戦犯で終身禁固刑、仮出所中病没

#### イタリアにバドリオ政権

米英連合軍は昭和18年7月10日、シチリア島に上陸した。25日にはムッソリーニが失脚、逮捕され、首相にはバドリオ元帥が任命された。9月3日、連合軍がイタリア南部に上陸するとバドリオ政権は密かに休戦交渉を進め、8日連合軍に無条件降伏した。

●8月30日、華族会館で第1回重臣会合

- ▽重臣側は 東条一人だけを呼ぶ積もりだったが 東条は「それでは出ない」と 閣僚4人を同伴
- ▽話が戦局に及ぶと 東条は「戦争は自分の責任であるから、重臣はとやかく口を出しちゃいかん」「万一、自分が辞めたら、後にパドリオが出現する可能性が多いから、断じて退くわけにはいかぬ」と 怒号したと云う
- ▽東条の一喝で 腰砕けに終わったが  
これが慣例になり 毎月1回 交互に招待  
東条も心を許したのか 19年2月から一人で
- ▽この重臣の結束が 東条内閣総辞職(19年7月18日)へ

●近衛は高松宮に期待し接近

- ▽18年7月15日の「高松宮日記」には  
「近衛公来談。時局困難ニ伴ヒ国内態勢ノ問題  
ニツキ談話」
- ▽戦争早期終結の考えを持っていた 高松宮も  
各方面の要人に会い 積極的に話を聞く
- ▽皇国史観の平泉澄東大教授は 皇族出馬を促した

高松宮日記(18年7月21日)

一九〇〇平泉博士。戦局益々困難トナリ、ドウモ東条総理デハ国民ノ心ヲ満足シテ敗勢ヲ挽回スルコトニ一致セシメルコトハ出来ナイデアラウ。国民ハ未ダ勝ッテオルツモリデキル。今カラ一生命懸命ニ喜ンデ努力スル様立ナホサナケレバナラヌ。ソレニハ皇族が乗り出ス時機ハスデニ来テキルノデアラウ…悪化ノ情勢ニ陛下ガ正シイ筋ノ通ツタ人ヲ側近ニ有セラレルコトハ必要デアル。又カハル場合ニハ平凡ヨリ癖アルモ仕事ヲスル人モ必要ナリ云々ト。

●38歳の高松宮は、日記帳第14冊巻末(7月31日)に最悪の場合、敗戦の場合を考え、悲壮な決意

- ▽天皇の側近にいて 天皇を助けた方がいいのか  
それとも 戦場で敵中に突撃した方がいいのか
- ▽自分が戦死することで 国民の怨みを慰撫  
再起発奮を 誓わせることが出来るだろう

近衛の心配

近衛は、大臣や総長が天皇に悪い方面は極力隠し真実を申し上げていないのではないかと。陛下は極めて素直に軍の上奏を聞かれるから、事態をそれほど心配されていないようだと言った。その中で、直接天皇に言上出来るのは、弟の高松宮海軍大佐だけと、高松宮に期待し、接近を図る。

平泉 澄(ひらいずみ・きよし)

明治28(1895)～昭和59(1984)福井県生まれ。昭和10年東京帝大史学科教授。戦前の皇国史観の中心人物で学内に右翼思想団体「朱光会」を組織。敗戦の日、退官して故郷に隠棲。著に「我が歴史観」

高松宮の決意

戦局ノ困難ハ増大スベク、国際情勢又有利ナラザルハ速ニ改善セラルベキ予想立タザル時、最悪ノ場合ヲ考ヘ其ノ処置ヲ案ズルハ極メテ必要ナルナリ。即チ私トシ直チニ迷フ問題ハヤハリ生カ死ノ分レ道ニ立ツコトナリ。一ツハ都ニアリテ陛下ノ側近ニアルコトニシテ、一ツハ戦場ニ赴キテ敵中ニ突撃スルコトナリ。何レモ国体変革ノ暴動ニ際シ皇位ヲ守ルタメナリ。敗戦ニヨル国民ノ怨ミガ天皇ニ直接向ケラルトセバ、私ガ戦死スルコトニヨッテ感情的ニ慰撫スルト共ニ国民ヲ発奮再起ヲ誓ハシムルコトヲ得ベシ…

然レドモ現在ノ人材ニ於テハ一抹ノ不安ヲ国内ノ死後ニ残サバルヲ得ザルモノアリ。而シテ生キテ側近ニアリテ何ンノ重責ヲ負フベキヤヲ思ヘバ、又自ラノ識量ノ足ラザルヲ憂フルコト切ナリ。茲ニ生、死ノ迷ニナヤムヲ如何トセバ死ヲ選ブノミカ。秩父宮ニシテ些カニテモ活動シ得ラルトセバ、三年ノ命ヲ一年ニツメ



- まず東条内閣の実態を見ようと、岡部長景文相、東条にも会って、話を聞いている

▽無気力そのものの内閣と 東条の嘆き節

高松宮日記

(8月4日)岡部文相ノ話 (一)閣議ハ近衛大モノ内閣ノ時ノ様ニヨワヨワシイモノデハナイガ、極メテ事務的ナリ。東条首相ハヨク意見ヲ述ベルガ、他ノ閣僚ハ殆ンド云ハズ。東条首相ハ最近ハ「カンシャク」ヲ起ス様ナコトナクホレリト。唯「ステーツマン」トシテノ人格ハ猶足ラヌ。閣僚ガ「スクラム」ヲ組ンデ東条内閣ヲ発展セシメントスル努力ハ旺ンデナイ。無任所大臣モ発言セズ。戦争指導ニツイテハ、閣議デハフレルコトナシ。(二)閣僚ガ会食懇談スル等ノコトナシ。

(8月18日)東条総理ニ聴ク。①連絡会議(政府大本營連絡会)モ形式的ニナツテキテキル②総理大臣トシテハ作戦ニ関シ注文ヲツケタリ作戦ヲキイタリスルコトハ統帥権ヲ乱スト云ハレルコトヲ大イニ慎ンデキル…今後ノ作戦ヲドウスルノカト参謀総長ニ尋ネテキルガ、今ダニ返答ガナイ。陸軍大臣トシテハ参謀総長ニ色々ト云ツテオルガ、之モ形式論カラスレバ統帥権ノ問題ニナルノデ気ヲツケテキル。総理大臣ト両総長デ戦争作戦指導ヲ決メユキ度イガ、両総長ハ何ンデモ部下ニ相談シナクテハ決メラレヌノデ話ニナラズ…③国務デハ属官ガヤツテユク様ナ現状ハ速ニ改ムベキト思ヒ閣議デ云ツテルガ、中々各大臣ノ命令ガ徹底セヌ。

- 高松宮も「東条ではダメ」と、終戦の機会を求める

▽元外相幣原喜重郎(8月28日) 吉田茂(10月29日)

岡田啓介(11月12日) 米内光政(11月18日)を招く

▽近衛は10月25日 高松宮に

「陛下に色々なことを申し上げるように」

▽高松宮の「方々駆け回って、各方面の意見を聞いてくる者がほしい」の希望で 32歳の細川護貞

敗戦まで1年2か月 秘密の情報ルート

▽厳しい言論統制下 ゆるやかながら

「東条包囲網」が 形成されていく

テモ国家ノ危急ニ応ゼラルベキハ明カナルモ、未ダ之ヲタノムベク体力ノ快復シ給ハザルヲ惜シム。三笠宮ハ余リニ幼稚(稚)ナリ。数年後ヲ委スルニ足ルベキモ、今直チニモノノ役ニ立ツトハ思ヘズ。…他ノ皇族ニシテ頼ムニ足ルモノナキ観アリ。…

天皇親政アルベシト云フ。親政トハ如何。天皇一人ニシテ何ヲナシ給フヤ。総理大臣ト天皇トノ間ニ隔タルモノアリトノ不安モ、結局ハ国民ノ生活苦乃至戦争遂行ノ不安ニ依ルベシ。…要ハ総理大臣ヲ信頼スベク国民ヲ指導スルニアルベシ。…

岡部 長景(おがべ・ながかげ)

明治17(1884)～昭和45(1970)東京生まれ。内大臣秘書官長を経て、昭和18年東条内閣文相。学徒動員、勤労働員を実施した。戦後は国立近代美術館長

幣原 喜重郎(ひではら・きじゅうろう)

明治5(1872)～昭和26(1951)大阪生まれ。駐米大使を経て大正13年外相。親米英路線の幣原外交を展開した。昭和20年10月首相、24年衆議院議長

高松宮日記(10月25日)

——〇〇近衛公。時局極メテ重大トナル。陛下ハマツイ事ガオ耳ニ入ツテキルダラウカ。大河内(正敏)内閣顧問ノ御話ノ時モ原稿ヲ検閲シテ御心配ニナラヌ様ニホシタト云フ。…私ニ色々ノコトヲ陛下ニ申シ上ゲル様ニトノコトナリ。ヤハリ資料ヲ私ノ耳ニ入レル人ナシト云ツテオク。

大河内 正敏(おほうち・まさと)

明治11(1878)～昭和27(1952)東京生まれ。東京帝大教授、大正10年理化学研究所を創立し理研コンツェルンを作る



「戦時下の言論」関係年表

年	月	日	出来事	年	月	日	出来事
昭和	1904	2. 10	露に宣戦布告。日露戦争始まる	昭和	1943	2. 1	ガダルカナル撤退始まる(7日 完了)
44	1911	8. 21	警視庁、特別高等課を設置			2. 9	大本营「ガダルカナル転進」と発表
大正	3	1914	7. 28 第一次世界大戦始まる			2. 23	陸軍省、陸軍記念日の決戦標語「撃ちてし止まぬ」のポスター5万枚配布
14	1925	3. 7	治安維持法、衆議院で修正可決			3. 2	日本野球連盟、用語の日本語化決定
		5. 1	陸軍、4個師団廃止を公示(宇垣軍縮)			3. 5	朝日新聞、日劇正面に「撃ちてし止まぬ」の百畳じきの写真を掲げる
昭和	6	1931	9. 18 柳条湖で満鉄爆破。満州事変始まる			3. 13	戦時刑事特別法を改正。宣伝罪規定
11	1936	2. 26	二・二・六事件			3. 18	戦時行政職権特例法を公布施行
		5. 25	中野正剛「東方会」(のちの東方会)結成			4. 9	名古屋市、市電・バスの女性車掌600人の服装をモンペに統一
12	1937	7. 7	蘆溝橋事件勃発。支那事変始まる			4. 18	連合艦隊司令長官山本五十六戦死
14	1939	9. 1	第二次世界大戦始まる			4. 28	東京6大学野球連盟解散、試合中止
15	1940	6. 1	砂糖・マッチ切符制、6大都市で実施			5. 22	夏場所の青葉山・龍王山引き分けに、「敢闘精神なし」と無期限出場停止に
		6. 22	国民歌謡「隣組」がラジオ放送される			5. 26	中央公論社員ら4人、細川嘉六と共産党再建を謀議と逮捕(横浜事件)
		7. 22	第2次近衛文麿内閣成立			5. 29	アッツ守備隊2600人玉砕(30日 発表)
		9. 11	内務省「部落会町内会等整備要領」を訓令、隣組整備に乗り出す			6. 28	食糧営団、米の代用にジャガ芋配給
16	1941	9. 27	日独伊三国同盟、ベルリンで調印			7. 10	米英連合軍、シチリア島上陸
		10. 12	大政翼賛会発会式。総裁に近衛首相			7. 15	近衛、高松宮を訪ね時局につき懇談
		4. 1	米の割当通帳制による配給(6大都市)			7. 25	ムッソリーニ失脚、逮捕。イタリアにバドリオ将軍の政権誕生
		4. 13	日ソ中立条約、モスクワで調印			8. 8	岡田啓介元首相の指示で迫水久常が木戸内大臣を訪ね、倒閣工作に動く
		6. 22	独軍、ソ連に侵攻。独ソ戦始まる			8. 30	華族会館で第1回重臣会合。東条首相を招いて戦局などにつき懇談
		7. 28	日本軍、南部仏印に進駐開始			9. 1	都市近郊で野菜買い出し制限始まる
		8. 1	米、対日石油輸出を全面禁止			9. 6	警視庁、三田村武夫代議士(勲)逮捕
		9. 4	内閣情報局に「流言蜚語対策協議会」			9. 8	イタリア、連合軍に無条件降伏
		10. 18	東条英機内閣発足			10. 21	警視庁、倒閣容疑で中野正剛逮捕
17	1942	12. 8	太平洋戦争始まる。真珠湾攻撃			10. 24	首相官邸で「中野処分」の緊急会議
		12. 19	臨時取締法で集会・結社は許可制に			10. 25	第83帝国議会召集(26日 議会開院式)
		1. 1	大蔵省、食塩の通帳配給制実施			10. 26	憲兵隊で取り調べ中の中野、勾留を解かれ帰宅。深夜割腹自殺
		2. 1	味噌、醤油も通帳による配給制◆衣料品の総合切符制実施、1人年間100点			11. 1	兵役法改正。兵役服務年限は45歳に
		2. 15	日本軍、シンガポール占領			11. 8	細川護貞、高松宮の情報収集係に
		4. 18	米軍機、東京など日本本土初空襲	19	1944	1. 29	横浜事件の検挙者広がる
		4. 20	翼賛選挙。推薦候補は381人が当選したが非推薦候補も85人当選			2. 23	毎日新聞に「竹槍では間に合はぬ、飛行機だ、海洋航空機だ」。発禁処分
		5. 15	閣議、大政翼賛会の機能刷新を決定。青年団、婦人団体を傘下に収め、町内会や隣組も翼賛会の指導下に置く			7. 7	サイパンの日本軍守備隊玉砕
		5. 20	翼賛政治会結成。衆院各会派、東方同志会など全右翼団体を強制的に解散			7. 10	情報局が中央公論、改造に「自発的廃業」の形で解散命令
		5. 24	プロ野球名古屋-大洋戦、延長28回で日没のため4-4で引き分け			7. 18	東条内閣総辞職 ◆通信院防衛施設局長の松前重義、二等兵で指名召集
		6. 5	ミッドウェー海戦。日本4空母を失う			7. 22	小磯国昭・米内光政連立内閣成立
		6. 11	吉田茂、内大臣木戸幸一を訪ね、和平工作に近衛のスイス派遣を進言			9. 9	プロ野球、「総進軍優勝大会」(11日まで)を最後に試合を打ち切る
		7. 22	配給石鹼、都市部で月2個(4人割)	20	1945	4. 1	米軍、沖縄本島に上陸
		8. 7	米軍、ガダルカナルに上陸開始			4. 7	鈴木貫太郎内閣成立
		9. 1	細川嘉六の論文掲載の「改造」発禁に			5. 7	ドイツ、連合軍に無条件降伏
		9. 12	神奈川県特高課、日米交換船で帰国の労働問題研究家川田寿夫妻を逮捕			8. 15	敗戦。玉音放送
		9. 14	警視庁、細川を出版法違反で逮捕			8. 30	横浜地裁、横浜事件被告に有罪判決
18	1943	12. 20	中野正剛、「時局批判大演説会」開く			10. 15	治安維持法廃止。細川嘉六免訴に
		1. 1	朝日新聞に中野の「戦時宰相論」			3. 31	横浜事件・板井庄作さん、86歳で死去
		1. 7	農林省、配給米を5分づきに			4. 15	横浜地裁、横浜事件の再審開始決定
		1. 13	内務省、情報局、ジャズなど米英の楽曲1000曲の演奏、レコード禁止				
		1. 15	間接税増税を閣議決定(3月1日 実施)	平成	2003		
		1. 17	たばこ値上げ。金鶏15銭、光30銭に				

